

2023 年 3 月 13 日

2022 年度「URASHIMA VILLAGE」(香川県三豊市)視察・交流ツアー報告

一般社団法人日本ウッドデザイン協会

【開催概要】

内 容:ウッドデザイン賞 2021 最優秀賞(農林水産大臣賞)受賞作品「URASHIMA VILLAGE
視察及び現地関係者との交流ツアー

日 程:2022 年 10 月 13 日(木)~14 日(金)

視察先:香川県三豊市 URASHIMA VILLAGE, UDON HOUSE 他

【意見交換会・交流会】

出席者:香川県、三豊市、三豊市議会、URASHIMA VILLAGE 事業関係者、
日本ウッドデザイン協会ツアー参加者

【スケジュール】

月 日	時 間	旅 程	備 考
10月13日 木	11:20	高松空港 出発	中型バスにて移動
	12:00	JR坂出駅 出発	
	13:00	UDON HOUSE (オリエンテーション、昼食)	讃岐文化を伝える古民家再生宿泊施設
	14:00	URASHIMA VILLAGE チェックイン	WD賞最優秀賞作品見学
	15:00	多喜屋 (菅組) 施設見学	古民家改修の宿
	15:30	仁尾町文化会館	
		県、市、関係業者の皆様との意見交換会	ウッドデザイン、地域材活用
	17:10	古木里庫 (菅組) 施設見学	讃岐の古材活用事例見学
10月14日 金	17:30	父母ヶ浜 現地視察	宿泊施設誕生の切っ掛け
		URASHIMA VILLAGE 泊	
	8:00	URASHIMA VILLAGE 出発	
	9:30	喜田建材 (Demi1/2)	建材事業からの新形態
	10:00	RACATI	木工会社のBean to barチョコ
	11:00	三豊鶴 TOJI	古酒蔵改修の複合施設
	12:30	暮らしの森 金丸工務店	WD賞最優秀賞受賞企業
	13:00	暮らしの森 むく食堂 (昼食)	
	14:00	菅組加工場	創業110年、宮大工の加工場
	15:00	移動	
	15:45	坂出駅	
	16:30	高松空港 解散	

【視察先】

1. UDON HOUSE:讃岐文化を伝える宿泊施設（古民家改修）

20 年間空き家だった築80年の古民家をリノベーションし、体験型宿泊施設として2019年10月にオープン。以来 15 カ国 200 名以上のゲストを受入れ地域観光拠点のゲートウェイとしての働きを担う。“Timeless Food Travel”を掲げ、ローカルフードである讃岐うどんを 6 時間かけて作りながらうどんや出汁や地域のことを学べる体験型宿泊施設。

URASHIMA VILLAGE は、この UDON HOUSE に夜な夜な集まり、地域を盛り上げていくためにはどうしたら良いかを話し合っていた仲間同士の会話からそのコンセプトが形になる。

<https://udonhouse.jp/>



▲古民家を改修した UDON HOUSE。多種多様な讃岐うどんを体験しながら学べる宿泊施設。

2. URASHIMA VILLAGE ウッドデザイン賞 2021 最優秀賞(農林水産大臣賞)受賞作品

讃岐の山々と瀬戸内海が共存する全 3 棟の一棟貸し宿泊施設。各所に地域産の木材を使用し、長期滞在を見越した館内設備により社員研修や新たなワーケーションの場としても活用されている。利用者だけでなく、地域の人々との交流のハブ施設機能に加え、地域の宿泊施設のハブともなり、地域を活性化している点が高く評価され、ウッドデザイン賞最優秀賞を受賞。

今回のツアーでは、設計と施工を担当した金丸工務店の藤田社長より、直接この作品の解説と紹介を受けた。また、ウッドデザイン賞創設時よりコミュニケーション部門の審査委員を務めているプロジェクトプロデューサーの古田秘馬さんから、当作品が地元事業者とどのように連携し、地域に良い効果を生み出しているか説明を頂いた。 <https://urashimavillage.com/>



▲エントランスから目の前に広がる瀬戸内海。
使われているのは県産ヒノキ



▲黒い壁は塩害を防ぐため瀬戸内沿岸で
継承されてきた伝統技法「焼杉」。



▲ダイニングキッチンの内装材は県産ヒノキ。
浦島太郎がカメを助けた場所と言い伝えのある無人島・丸山島を望む。

◀地元の土や漆喰、土佐和紙を活用した外装。
構造材にも香川県産ヒノキが使われている。

擁壁は地域の石材を利用。施設内に隠された▶
亀甲マークを探すのも宿泊者の楽しみのひとつ。



◀プライベートビーチへ続く坂道の木のアーチは
事業関係者自らが木を運んで作った手作りのもの。





◀坂道を降りた先にあるバレルサウナから眺める海と浦島伝説の残る丸山島。体が充分温まったら、目の前の海へ飛び込んで海水で体を冷やし、プライベートビーチのデッキに横たわって心身を整える。日常から切り離された悠久の時間を体感できる。

バレルサウナをビーチ側から見上げる▶



▲プライベートビーチで事業費用の解説を聞く

ビーチからの夜景▶



3. 仁尾縁「多喜屋」:町全体でもてなす古民家改修の宿

地元で古くから住宅や社寺、古民家改築等を営む菅組が、三豊市仁尾町に江戸の頃から残る街並みの再生と新しい地域のあり方を模索するプロジェクトとしてスタートした「仁尾縁」。その第一弾として、江戸時代の商家を再生したのが宿所「多喜屋」。町の住人になったかのようにそこで「暮らす」ことを目的としてその場が提供されている。

<https://nio-yosuga.jp/room/takiya/>



▲菅社長によるご案内



▲梁はそのまま残し、照明を現代風に設える

4. 意見交換会 於:仁尾町文化会館

参加者の自己紹介、日本ウッドデザイン協会の活動紹介に続き、この地域連携のきっかけとなった UDON HOUSE を運営している瀬戸内 Works 原田代表より URASHIMA VILLAGE 誕生の経緯、また、金丸工務店の藤田社長よりこの作品の設計思想、焼杉など地域の伝統技法継承のためのワークショップその他の取り組み、ウッドデザイン賞最優秀賞を受賞したことによる反響の大きさ等プレゼンテーション。その後、地元事業者の皆様と行政の関わり方、木材活用について香川県、三豊市が抱える課題と民間の事業者がそれをどのように捉えて活動をしているかなど、プロジェクトプロデューサー古田秘馬さんによるファシリテーションにより、活発な意見交換会が行われた。



▲意見交換会の様子

5. 古木里庫 ～讃岐の古材と薪ストーブのお店

菅組が建築解体で「産業廃棄物」として処分していた木材や古建具等を収集し、再び命を活かす目的で、古材や古道具など 300 点を超える商品を保管・販売している。先人の刻んだ技と歴史を垣間見る事ができる貴重な材を生活の場に戻し、活かして頂きたいとの思いで、古民家をリフォームし、薪ストーブのショールームを兼ねた広々とした倉庫スペースのなかで、材をじっくり選べるよう、部位ごとに展示をしている。<http://www.kokiriko.jp/>



▲外観



▲部位ごとの展示

6. 父母ヶ浜(ちちぶがはま):地元が守る美しい夕日の砂浜

砂浜に残る潮だまりに反射する空や雲が鏡のように映る写真が注目され「日本のウユニ塩湖」として世界的に注目を浴びる。2016 年に訪れた観光客は年間 5,500 人だったこの土地が SNS の影響により 2019 年には年間 40 万人が訪れる場所となった。父母ヶ浜を訪れる観光客は爆発的に増加したものの、近辺には宿泊施設が少ないため、近隣には一棟貸しの宿が増えてきた。その流れの中で URASHIMA VILLAGE も誕生することとなる。

訪れた日は天候にも恵まれ、年に数回と言われる大変美しい夕景を目にすることができた。



▲刻々と沈みゆく夕日

7. 喜田建材 Demi1/2(でみにぶんのいち) :建材卸+不動産+宿泊対応+雑貨店

150 年前から地元の家づくりを支えてきた喜田木材の建材部門より分社化された喜田建材が、建材の購入者である地元の工務店、地場ゼネコンを支援しようといふことを考えながら生み出した、見込み客の送客をするための BtoB、BtoC 一体となった事業形態。

一見したところ雑貨店に見える佇まいであるが、中に入ると建築資材のサンプルが、使われ方を示すようにディスプレイされていたり、地元の不動産情報が展示されていたりと“木のある暮らしにまつわる、お客様と事業者、地域が繋がる入口”としての機能を果たしている。

<https://demi-kitaken.com/>



▲Demi1/2 の入口はウッドデッキ



▼木で作られた雑貨だけでなく、木の恵みの特産品も販売



▲地元企業の連携のために熱い思いで事業を推進する喜田社長



▲建材のショールーム



▲不動産情報も掲示

8. RACATI(ラカティ):木工会社による Bean to Bar 専門店

三豊市で大正時代より続く建材加工の株式会社モクラスが運営する、チョコレート専門店。

RACATI はチカラの逆読み。美容や健康、アンチエイジングに効果があるカカオ豆の選別・焙煎・製造の全行程を一貫して行う。地元香川名産の和三盆と単一産地のカカオ豆のみで作るシングルオリジンにこだわり、豆本来のチカラを最大限に引き出した完全手作り。店内の家具も自分たちで手作りしたもの。障がい者雇用など多様な働き方の準備を進めている。

<https://racati.com/>





▲木で手作りされた家具のデザインだけでなく、緑やインテリアの配置など空間デザインにもセンス溢れる場所

10. 三豊鶴・TOJI:古酒蔵を改修した複合施設

江戸時代末期1860年代に創業、140年に渡り営んでいた三豊最後の酒蔵が約20年前に廃業。危険家屋として地元の負の遺産となっていた場所を喜田建材の喜田社長を含む地域の若者5人衆が一目惚れと世代の責任感より衝動買い。日々の本業を終えた後、この場所を何にするか話し合いながら梁の高さまで溜まったゴミ処理を深夜から始めること2か月余り。夢を描いた一枚のスケッチを設計図として、2019年夏に“地域の価値”を“醸造”するスペース「三豊鶴」を開業。期間限定の地域食文化継承レストランや地元を中心とした若いアーティストを支援する取組の一環としてアートギャラリーを運営。2020年秋には「三豊鶴 TOJI」として体験型ゲストハウス事業をスタート。宿泊者を“酒米”に見立て、チェックインした“酒米”はかつて利用されていた本物の醸造所を活用した「醸造大浴場」で一日を過ごし、翌朝“日本酒”になってチェックアウトするというユニークなコンセプト。酒蔵としての造りを残して活かしながら、新しい地域の価値を提供している。<https://www.mitoyotsuru.com/>



▲夢のスケッチ



▲カタチになった夢



▲「酒蔵」の暖簾もそのままに



▲路地の先は瀬戸内の海

10. 暮らしの森 金丸工務店：地域に根ざすアーキテクトビルダー

金丸工務店 藤田社長によるプレゼンテーション。昭和46年創業。藤田社長は2代目。地元で木を使った注文住宅を中心に工場、学校、銀行など広く手掛けてきた。注文住宅において、家として求められる性能は当然、それぞれの人の“暮らし方”を聞きながら、ひとつひとつ丁寧につくることを心掛けている。時代と共に希薄になっていく地元コミュニティを立て直したい思いから、2015年に“暮らしの森”という複合施設を開設。社屋、雑貨ショップ、カフェ、モデルハウス、料理教室、ギャラリー等で構成されている。今回お話を聞いたのはその社屋の一角。その隣に新しい土地を購入し、さらに施設の拡大を計画中。

<https://www.kanamarustyle.com/>



▲「すまい教室」も行うという社屋の一角



▲暮らしの森にある自家焙煎カフェ「ハレとケ珈琲」



▲暮らしの森にある「むく食堂」にて昼食

11. 菅組 加工場:創業 110年、宮大工の加工場

はじめは、江戸末期 1848 年の宮大工集団。社寺はもちろん住宅や一般建築、リノベーション、古民家改修と、建築に幅広く携わり「地域で愛される総合建築会社」として地域に根ざして現在へと至っている。管理業務を主体とした外注依存度が高い業界において、自社専属の職人による一貫施工システムを確立。数年前から技術者の養成にも着手し、高齢化が目立つ職人たちの技術の継承にも努めている。 <https://www.suga-ac.co.jp/company/>



▲菅組加工場では、棟梁、息子、孫の 3 代が職人として働いている。

11. 讃岐緑荘

「讃岐の風景をつくる」ことを大切に建築に幅広く携わる菅組が、建築家・堀部安嗣と共に手掛けた「讃岐緑荘」。香川県産材の利用はもとより、焼杉や漆喰、瓦といったいつかは自然へと還る讃岐地方の伝統素材を取り入れ、光や風など自然の恵みを生かした設計、伝統技術を大切に受け継いできた大工の技など、土地の風景や風土になじむ建築づくりをしている。父母ヶ浜のすぐ脇にあり、モデルルームとしてだけでなく、江戸からの街並みを残す仁尾町の景色を眺めながらその地で「暮らす」こともできる、一棟貸しの宿泊施設としての利用も可能。



▲讃岐の風景をつくる外観



▲杉無垢フローリング、壁、天井も杉

以上